

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画(4月)					評価(総合)	自己評価は	
学校運営方針		教育基本法及び福岡県の教育目標並びに「鍛ほめ福岡メソッド」に則り、平和で民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい意思と実践力を備え、創造性豊かな人材の育成をめざすとともに、志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ、たくましい生徒を育成する。特に文武両道を志し、校訓である、礼節を重んじ、努力を惜みず、理想を追求する人材の育成に努める			B	B	
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標			
入学志望者数は昨年度より増加したものの、現状を真摯に受け止め、より一層の広報活動はもとより、充実した教育活動を提供することで、本校のアピールへと繋げていく。		学力伸長のための継続した授業改善		授業改善の継続的取り組みとICTを活用した「新たな学び」の発展 ・生徒一人一人の個性を生かした進路の実現に向けた教育課程の再編成 ・観点別評価の効果的な運用			
コロナ禍での学校生活で、生徒は自主的・主体的に活動する経験値が低い、学校行事や部活動、異学年の交流を増やし、上級生が下級生に教え合う、学び合う中で培われる「直高のよき伝統」の継承を徐々に復活させる。特に令和5年度は体育祭や文化祭など学校行事を昨年度から再開し、不易と流行を十分に見極め、生徒会を中心とした生徒のリーダーシップ育成に努める。		進路意識の高揚と希望進路の実現		・系統的なキャリア教育の実現 ・多岐にわたる幅広い進路希望に対応した課外授業の充実 ・個人の進路目標や学力に応じた課外授業の充実 ・基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・美化活動の励行)の確立 ・生徒を主体とした部活動や学校行事の活性化			
オンライン学習は各家庭の通信環境の差を埋める工夫を立案し、生徒用端末の持ち帰りの推奨による家庭学習の推進を図る。		直高生としての誇りを高める生徒指導の充実		・教育活動全体を通じた人権教育や情報モラル教育の推進 ・生徒情報の共有と教育相談体制の充実、特別支援教育の推進 ・様々な就学支援策を適切に運用することによる生徒一人一人を大切に学校 ・いじめを決して許さない意識や態度の育成			
生徒の多くが第1希望の進路実現を成しえたが、学習の個別最適化をめざし、個に応じたきめ細やかな指導で学力の伸長を図るようにする。		自他の生命を尊重する人権教育の推進		・学校のホームページ・SNS等を用いた広報活動の充実 ・直方市等地域と連携した学びの充実 ・地域の小・中学校と連携した活性化方策の推進 ・直高FSP(フロンティアスピリットプログラム)をおとした地域活性化や生涯スポーツ社会の実現に向けて全力で取り組む人材育成			
PTA・同窓会等との連携による教育環境の整備や学校行事等の充実		開かれた学校づくりの推進と関係機関等との連携強化		・PTAと連携した学校行事の工夫 ・同窓会の援助に対する効果的な教育活動の充実			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題			
教科指導	基礎学力の向上	新教育課程に対応した学習指導方法を確立し、継続した指導を行う体制を整える。 各教科・学年で学力到達度テストを活用した取り組みを行う。 観点別評価の効果的な運用によって、生徒の特長を伸ばす学習指導を促進する。	A A B	A	より効果的な観点別評価の運用を模索し、生徒の特長を伸ばす学習指導によって基礎学力の向上と、主体的にぶ姿勢の涵養に努める。		
	学習環境の整備	使用している机や椅子を点検し、必要な新しい机、椅子の整備するなど学習環境を整える。 新課程のカリキュラムを精査し、進路ごとに特化できる編成への改組を図る。 統合型校務支援システムをより効率化し、生徒への還元を図る。 8:40着席完了、8:45期の読書開始で落ち着いた環境を作る。 教室の整備と整理整頓。掃除の徹底。 相手の心を動かす挨拶。	B C A B		新しい机・椅子を整備し、生徒の学習環境を整えるとともに、生徒の希望進路により特化したカリキュラム編成の構築を目指す。		
生徒指導	時を守り、場を清め、礼を正す	新たな日常のスタイルを確立しながら、伝統的な行事は引き継ぎつつ、変化していく。 生徒会執行部からの新たな取組の実施。 生徒会執行部を中心に、生徒主体とした学校行事の活性化	B B B	B	基本的な生活習慣の確立を図るため、生徒会や職員と協力しながら定期的に登校指導等を行い、基本的な生活週間(時間、挨拶、整理整頓)を徹底させる。		
	学校行事の活性化	進路DP(ドリームパスポート)の電子化を含めて、社会の変化に合わせた内容に改定する。 進路ガイダンスをはじめとした進路行事の充実を図る。 総合的な探究の時間を通じて身に付けた探究サイクルを自らの進路学習や学問研究等につなげる取組を行う。 土曜講座や課外授業の講座編成を各学年、教科と連携し生徒の実態に即して、柔軟に変化させられるようにする。 昨年度の3学年のデータを過去と比較して分析し、各教科と連携して、生徒の伸ばすべき部分を焦点化して教科指導の支援を行う。 早期に就職希望者を招集し、今年度の状況とこれからの展望や指導の流れを理解させ、自己の将来像と結びつけさせる。 生徒情報を教員間で共有し、適切な支援を行う。 特別支援コーディネーターとの連携を図り、情報を共有し必要な手立てを行う。 外部講師を招いて研修会等を充実させる。	A B A B		生徒を主体とした学校行事の活性化を図るため、早めの準備、行事終了後すぐに反省を行い、来年度に向けての検討をする。		
進路指導	生徒の自発的なキャリア発達の促進	進路ガイダンスをはじめとした進路行事の充実を図る。 総合的な探究の時間を通じて身に付けた探究サイクルを自らの進路学習や学問研究等につなげる取組を行う。 土曜講座や課外授業の講座編成を各学年、教科と連携し生徒の実態に即して、柔軟に変化させられるようにする。 昨年度の3学年のデータを過去と比較して分析し、各教科と連携して、生徒の伸ばすべき部分を焦点化して教科指導の支援を行う。 早期に就職希望者を招集し、今年度の状況とこれからの展望や指導の流れを理解させ、自己の将来像と結びつけさせる。	B B A B	B	総合的な探究の時間を系統化し、キャリア教育の一環として位置づけ活用し、変動する社会で必要とされる職業観や労働観などの知識・技術と自己の適性や学びの成果を結びつける。		
	第一希望進路実現の支援	進路ガイダンスをはじめとした進路行事の充実を図る。 総合的な探究の時間を通じて身に付けた探究サイクルを自らの進路学習や学問研究等につなげる取組を行う。 土曜講座や課外授業の講座編成を各学年、教科と連携し生徒の実態に即して、柔軟に変化させられるようにする。 昨年度の3学年のデータを過去と比較して分析し、各教科と連携して、生徒の伸ばすべき部分を焦点化して教科指導の支援を行う。 早期に就職希望者を招集し、今年度の状況とこれからの展望や指導の流れを理解させ、自己の将来像と結びつけさせる。	A B A B		多様な進路希望に対応したきめ細やかな系統的・組織的な課外授業等を継続して実施し、基礎学力をつけたとともに、成績上位層をさらに伸長するための指導計画や分析も適切に行う。		
環境保健	生徒支援の充実	特別支援コーディネーターとの連携を図り、情報を共有し必要な手立てを行う。 外部講師を招いて研修会等を充実させる。	B B B	B	全職員で共通認識を持ち生徒支援につなげるための報告が4月当初のみでその後の経過等の情報が入手されず、継続的な支援に繋がっていないので経過報告等の機会を増やしたい。		
	健康意識の向上	学校生活の中で換気、手洗い等、基本的な感染症対策と感染症予防の意識を高める生活習慣を行う。 自己の健康状態の把握と健康管理を行い心身ともに健康に過ごせるよう、基本的な生活習慣を身につけさせる。 防災訓練を実施し危機管理能力を高め、事故や災害が起こった時の行動や知識を身に付ける。	B B B		学校行事前後の感染対策、気候等に応じた行事等での健康被害対策の指導が不十分で事前事後の保健指導の充実を図りたい。		
研修図書	校内研修の充実	職員研修会を年に5回以上実施し、教職員の資質向上に努める。 ICT研修会を実施し、全員がchromebookを使った授業を展開できるようにする。 基本研修やキャリアアップ講座の研修の記録を研究紀要に保存する。 朝読書を徹底させるために、年度当初に朝読書の意義について周知する。	A B C B	B	各領域と連携し、計画を立てて実施する。基本研修の円滑な実施やキャリアアップ講座の受講促進などを行う。また、ICTを活用した授業を中学生や保護者、地域の方に見てもらう機会を作る。		
	図書活動の充実	「子ども読書の日」の取組を継続し、読書意欲を喚起する。 定期的な新刊案内や図書館だよりを発行し、図書館行事の情報を発信する。 一人一台端末の活用を促進するために、ICT支援員の活用や職員研修を実施する。 chromebookの持ち帰りを推奨し、家庭学習の強化につなげる。 タブレットやプロジェクター等のICT機器を整備、管理する。	A A A B		生徒支援部を連携し、朝読書指導(4月)を行う。図書委員会をICTを活用し、中心に新たな「図書委員おすめの本」等を作成する。		
情報広報	教育の情報化の推進	タブレットやプロジェクター等のICT機器を整備、管理する。 学校案内や直高PRESSを充実させ、広報活動につなげる。 中学校訪問を通じて直方高校の魅力を伝える。また、高校生を中学校へ派遣することを検討する。 学校ホームページに行事予定などを掲示し定期的に更新し、生徒、保護者のニーズに合わせたものにする。 「振り返りシート」や人権学習後の感想を活用して、課題を明確化し、日常生活において指導に生かす。 いじめに関するアンケートの記述内容の把握を確実にし、人間関係に課題はないか常にアンテナを張る。 人権学習等のLHRIについて、生徒に正しく伝えるよう、ポイントが明確にわかるワークシートやパワーポイントを工夫する。	A B B A B	A	Chromebookの修理が多くなってきており、管理業務を整理していく必要がある。職員研修や相互参観授業を行い全職員がICTを活用した授業を行う。		
	広報活動の充実	「子ども読書の日」の取組を継続し、読書意欲を喚起する。 定期的な新刊案内や図書館だよりを発行し、図書館行事の情報を発信する。 一人一台端末の活用を促進するために、ICT支援員の活用や職員研修を実施する。 chromebookの持ち帰りを推奨し、家庭学習の強化につなげる。 タブレットやプロジェクター等のICT機器を整備、管理する。 学校案内や直高PRESSを充実させ、広報活動につなげる。 中学校訪問を通じて直方高校の魅力を伝える。また、高校生を中学校へ派遣することを検討する。 学校ホームページに行事予定などを掲示し定期的に更新し、生徒、保護者のニーズに合わせたものにする。 「振り返りシート」や人権学習後の感想を活用して、課題を明確化し、日常生活において指導に生かす。 いじめに関するアンケートの記述内容の把握を確実にし、人間関係に課題はないか常にアンテナを張る。 人権学習等のLHRIについて、生徒に正しく伝えるよう、ポイントが明確にわかるワークシートやパワーポイントを工夫する。	A A A B B		公開授業を行い、全職員で直方高校の教育活動をアピールする。外部委託を止め、令和6年7月までに情報広報部でホームページを改定し、その後、随時更新を行う。		
人権教育	人権感覚に関わる実態把握と、その課題の明確化	「振り返りシート」や人権学習後の感想を活用して、課題を明確化し、日常生活において指導に生かす。 いじめに関するアンケートの記述内容の把握を確実にし、人間関係に課題はないか常にアンテナを張る。 人権学習等のLHRIについて、生徒に正しく伝えるよう、ポイントが明確にわかるワークシートやパワーポイントを工夫する。	A B B	B	差別事象の教育課題を明確化し、職員間での共通理解を図る。人権・同和教育LHRの見直しを継続的にし、日常的に生徒の人権意識を把握し、高めていく指導を行う。		
	修学支援委員会による情報共有から、指導・支援につなぐ	不登校生徒の欠課時数を早めに情報共有し、保護者支援の観点からも、家庭との連携を深める。 支援の方法に結び付けるために、関係機関やSC、SSWとの連携を深める。 授業担当者や学年など学校全体に広げるための情報共有や支援の方法を模索する。 式典や行事運営における企画、実施要項及び資料作成の充実を図る。	A B B B		不登校や学力不振、家庭状況等に困難を抱えた生徒に対して、校内での情報共有や交換を行い、関係機関と連携・協働しながら、効果的な支援の方法を探る。□		
企画庶務	式典や行事運営における企画	企画の際に各分掌と連携し、詳細確認を徹底し業務内容の円滑化を図る。 各企画を早期に完了し文書作成を適切に行い、余裕をもって発送にあたる。	B A A	B	継続して式典や行事運営における実施要項及び資料作成の充実を図る。各分掌との連携をとり、詳細確認の徹底に努める。業務内容の円滑化を図る。		
	PTA活動の充実	近年のPTA活動において中止・変更した部分を再構築する。 定期的役員会を行い、PTA行事の内容検討を行う。 PTA活動実施の場合には保護者の参加と職員の協力を呼びかける。	A A B		適切な時期に定期的役員会を行い、PTA行事の内容検討、改善を行う。PTA活動実施の場合には保護者の参加と職員の協力を呼びかけ、PTA活動の活性化を目指す。		
第1学年	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を身につけさせるために、5分前行動、朝読書の徹底。 始業時の黙想、号令を徹底し、授業規律の確立を図る。 明るい挨拶、時間厳守の習慣を身につけさせる。	B B A	B	朝読書を徹底させるために、副担任の先生方で朝の時間に見回りをした。その後も、自発的にできるように促したが、不十分であった。指示待ちではなく、考えて行動できる生徒を育成し、自己管理もできるように支援を行ってきたい。		
	学習意欲の向上(基礎学力の定着)	早期に、具体的な進路目標を設定させる。 家庭学習の定着を図るために、適切な質・量の課題を課す。 必要に応じて、個別の学習指導や添削を行う。	A B B		担任の先生方との面談や進路ガイダンス等を通して、将来に向けた学習の意識は見られたが、取り組みまでには至っていない。生徒の将来に対する危機感がなく、家庭学習を全くしない生徒が見受けられる。家庭学習への意識付け、習慣付けを行ってきたい。		
第2学年	主体的かつ協働的に学ぶ態度の育成	朝課外・土曜講座などに積極的に参加する、学年としての雰囲気づくり。 スタディサプリなどの学習支援システムを有効活用し、「やらされる」のではなく「自らやる」姿勢で進ませる。 届かないから逃げのではなく、届くまで自分を鍛え常に攻めの進路選択をさせる。	A B A	A	朝課外・土曜講座については、自ら進んで学ぼうという姿勢が乏しい。希望進路設定については進路別集会や個別の面談を複数回実施し生徒の意識を高めたことができた。今後、より一層の努力をさせる。		
	自己表現力の育成	直高FSP(フロンティアスピリットプログラム)の活動を通じて、コミュニケーション能力(伝達力・傾聴力・調整力)の育成を図る。 社会に出て、集団から重宝される、そして集団からかわいがられるような人格形成。 中堅学年として、3年生の取組を見習いつつ、1年生に確かな路を残せるような2年生の1年間を過ごす。	A B B		生徒情報の共有はスムーズに進められた。FSPについては、探究にかける時間が足りず、計画性をもって進行していくのが大変困難であった。社会に出てかわいがられる人格形成については次年度、受験指導や学校行事とからめながらより深めていく必要がある。		
第3学年	第一進路希望の実現、基本的な生活習慣の徹底	個人面談等を通じて、個の特性に応じた進路指導・進路選択をさせる。 目標達成に向けての意欲喚起と教員支援の環境づくりの徹底。 成人としての基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自己管理(健康面、精神面)ができるように支援を行う。	A A B	A	コロナ禍で入学してきた生徒で、入学時に「掃除や挨拶を徹底してさせる」「遅刻・欠席を安易にしない」等の基本的な生活習慣の指導が不十分であったことが、3年次まで影響したように感じる。やはり、基礎基本をしっかり身につけさせることが全ての土台であると認識して指導にあたりたい。		
	学校行事の充実	最上級生として、直高フェア、体育祭等でのリーダーシップの発揮を促す。 最上級生として、下級生の手本となるように指導する。 伝統を引き継ぐとともに新たな直方高校を作り上げる。 学年、学校をリードする生徒の育成に努める。	A A A A		この項目についても、コロナ禍で活動に制限があり、1年次からリーダーシップを育成することが不十分であったように感じる。探究活動なども効果的に活用しながら、様々な場面で様々な生徒に活躍の場を作り、主体的に行動できる生徒の育成を図っていく。		
スポーツ科学コース	人間力、自立的活動力の育成	各種目のスキルだけでなく、各競技を通して、何を身につけさせるか。将来を見据えた人間力の育成を図る。 ホームルーム活動や、授業、部活動の様々な場面で、スポーツを通して、想像力や道徳心の育成を図る。	B B	A	コロナ禍前のように、スポーツ科学コース全体の授業や実習を実施することができた。その中で、各学年においてリーダーシップを発揮できるようになってきている。スポーツ科学コース制としての自覚と責任を持った主体的かつ協働的に行動できる生徒の育成を図っていく。		
	小中学校対象、体力テスト補助の実施	小中学生の体力テスト補助を通して、指導者育成を図る。 自らの教育活動全体を通じて、学んだことをアウトプットさせる。 生徒一人ひとりの指導力、リーダーシップの向上を図る。	A A A		小高連携や地域との連携を積極的に進めていけるようにしていきたい。様々な知識や技能の習得を図り、アウトプットしていく場を設定していくことによって、生徒一人ひとりの指導力向上を図ってきたい。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策  
 ・普通科高校として進学率を向上させるため、基礎学力の定着を踏まえながら学力向上のための授業改善を目指す。  
 ・地域に貢献できる人材を育成するため、遵法精神や人権感覚の向上を学校生活の中で育成する。

評価項目以外のものに関する意見  
なし